



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2016年7・8月
第311号

病院だより第311号 (2016年7・8月号)

発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 田中 淳一
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

藤が丘病院呼吸器内科医長就任にあたって

藤が丘病院呼吸器内科 医長 鹿間 裕介

今年7月に昭和大学藤が丘病院呼吸器内科医長を拝命いたしました鹿間です。

昭和59年に本学旧第一内科に入局し、呼吸器内科医として診療に携わってまいりました。二度の学外研修ならびに3年間の米国留学を経験したのち、平成13年昭和大学横浜市北部病院開設時に呼吸器センターに異動となり、15年間の勤務ののち、このたび藤が丘病院にまいりました。

藤が丘病院は開設当時より内科系の各診療科の横のつながりが強く、内科の中の呼吸器といった印象があります。この点、臓器別のセンター方式とはまた違った良さがあると思います。内科医としての幅広さに加え呼吸器科医としての専門性を深めていくことが重要であると考えています。

呼吸器の領域は大変幅広く、アレルギー疾患喘息や感染症、COPD や間質性肺炎のような慢性進行性呼吸不全や肺癌といったように多岐にわたっています。また呼吸器疾患の特徴として、一人の患者さんにこれらの疾患が重複していることも往々にしてあります。近年呼吸器の領域の進歩としては、これまで治療方法がないといわれていた間質性肺炎に対し、抗線維化薬が疾患の進行を抑え、増悪の頻度を下げることができるようになりました。また COPD に対しては吸入療法の進歩により呼吸不全の進行にブレーキをかけ、自覚症状の改善を実感していただけるようになりました。さらに肺癌の内科領域ではこれまでは化学療法が中心でしたが、遺伝子変異の検討により分子標的薬へ、さらには免疫チェックポイント阻害療法へといった新たな治療法の転換期を迎え臨床成績を上げております。当科は最先端の治療をいち早く導入するとともに、新しい知見を内外に発信していけるよう教室員ともども頑張っていきたいと思っております。また藤が丘病院は地域の中核病院としても重要な役割を担っており、呼吸器内科もその一員として多彩なニーズに応えていけるよう邁進したいと考えています。今後も藤が丘病院呼吸器内科をよろしくお願ひ申し上げます。



た先輩を輩出した医局で研鑽を積み、昭和の時代から現在まで臨床・研究・教育に関わることができましたことが大きな財産であると思っています。

私が入局した頃の藤が丘の住民は比較的若年層が多く居住する街でしたが、約30年を経て、この地にも急速な高齢化の波が押し寄せていることを実感しています。とくに腎臓病は高齢者に高率に合併し、さまざまな合併症を引き起こすことが明らかにされています。私は腎臓病、とくに腎不全合併症の病態、治療に関する研究を実施してきました。腎臓内科医として診療する上で大切なことは、末期腎不全の患者数を減らすことであり、腎機能の悪化を防ぐこと、すなわち腎臓病の進行や重症化を防ぐことです。そのために急性や慢性の腎疾患を含めて診断、治療をいかに適切に実践していくかが重要なこととなります。当科では急性・慢性の腎臓病の管理に加えて、透析患者さんのさまざまな合併症の治療、関節リウマチなどの膠原病も専門外来を通じて対応するなど、腎疾患、膠原病を幅広く診療しています。今後もこれらの方針を継承しながら、さらに腎臓病の予防・管理に力を注いでいきたいと考えています。多くの患者さんに合併する慢性腎臓病の管理を私たちだけで担うことはできず、患者さんが通院している「かかりつけ医」との連携をはかることが大切です。腎臓病の管理についてご不明な点があればお気軽に相談いただけましたら幸いです。皆さま方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

リハビリテーション科診療責任者就任にあたって

リハビリテーション病院リハビリテーション科 診療責任者 川手 信行

この度、水間教授の定年退職に伴う後任としてリハビリテーション科診療責任者を拝命致しました。

私は、平成元年昭和大学医学部を卒業し28年間、一貫してリハビリテーション医学の臨床・研究および教育に勤しんでまいりました。藤が丘リハビリテーション病院は、私の卒業の翌年に開院したこともあり、リハ科診療科責任者を拝命致しましたことは感無量の思いです。藤が丘リハ病院は、大学附属病院としての日本で唯一の大学病院附属の都市型リハ専門病院です。また、回復期リハ病床を有しており、専門医機構の昭和大学リハ科専攻医研修プログラムの基幹病院でもあります。このような、日本でも有数のリハ専門病院に責任者として勤務できますことは、その責任の大きさを実感すると共に、誇りに感じております。今後とも更に精進し、日本一のリハ専門病院を医局員やリハスタッフと共につくりあげていけるように、微力ではございますが精進していく所存であります。

リハビリテーション医学は、日本においての知名度はまだまだ低く、何をしている診療科なのかよく理解できない方も多いと思



藤が丘病院腎臓内科医長就任にあたって

藤が丘病院腎臓内科 医長 小岩 文彦

このたび吉村吾志夫前教授の後任として、本年6月より昭和大学藤が丘病院腎臓内科の医長を拝命しました。私は昭和50年に、当院開院時の初代医長・教授として就任しました越川昭三先生が築いた腎臓内科医局に入局しました。多くの優れ



います。「障害の医学」とよくいわれますが、一言では言い尽くせない非常に幅広く奥深い分野であります。患者さんには、疾病や外傷に伴って生じる様々なレベルでの困難が多数存在します。それらを少しでも改善し、克服するために多職種で結成されたチームで医学的にアプローチし、たとえ障害が残ったとしても生き活きたした生活が送れるように総合的に支援していく臨床医学であると考えています。

昭和大学では、昭和大学病院・藤が丘病院・横浜市北部病院・江東豊洲病院の急性期病院においてもリハビリ科があり、急性期リハを推進しております。各病院と連携を深め、急性期リハ～回復期リハに至る一貫したリハの流れを構築できるように、そしてこの昭和大学のリハビリテーションの理念が日本中に広がっていくよう、一生懸命努力していく所存でございますので、皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

院内部署紹介

心臓リハビリテーション室からご挨拶

リハ リハビリ病院リハ リハビリセンター 小和板 仁

リハビリテーション病院では、心大血管リハビリ施設基準(I)の取得に伴い、2011年から理学療法士や作業療法士のリハビリスタッフも心臓リハビリに関わるようになりました。心臓リハビリは心筋梗塞などの心疾患患者さんに対して、主に自転車エルゴメータやトレッドミル、レジスタンストレーニングによる心機能・運動耐容能改善を行っています。さらに、薬剤師による服薬指導、管理栄養士による栄養指導等も行っています。各スタッフがチームとして再発予防にも努め、入院患者さんだけでなく外来患者さんにも心臓リハビリを行っています。

また、藤が丘病院の心臓リハビリスタッフとも合同で定期的カンファレンスを行い、患者さんの情報を共有して心臓リハビリを行いやすい環境を作っております。各スタッフがチームとして頑張っておりますので、今後も藤が丘リハビリテーション病院心臓リハビリ室をよろしくお願いいたします。



院内部署紹介

各専門分野がチームで患者さんを支援しています

藤が丘病院5階東病棟・西病棟 師長 戸田 桂子

藤が丘病院5階東・西病棟は、消化器センターと腫瘍内科の混合病棟で、病床数85床、看護師総数69名、クラーク2名、看護助手4名と大きな部署です。内科・外科の枠にとらわ

れず、一つの医療チームの中で相互に緊密な連携を図り、それぞれ専門的な役割を果たしています。病棟スタッフは内視鏡的治療や外科的手術の術前術後管理、入院時から退院後の療養環境を意識したセルフケアの自立支援はもちろんのこと、術前から術後呼吸器合併症予防で歯科の介入、術後廃用性症候群予防で理学療法士の介入、ストーマ管理や在宅支援で皮膚・排泄認定看護師、退院調整看護師、MSWの介入等、各専門分野と協同して患者さんを支援しています。そのほかに、緩和ケアチーム、褥瘡チーム、NSTチームなど専門チームが横断的に活動し、質の高い医療の提供に努めています。そのために、常日頃からお互いの職種を尊重してコミュニケーションを積極的に図り、みんな笑顔で業務に取り組んでいます。



スポーツ運動科学研究所 第2回学術研究発表会を開催しました

スポーツ運動科学研究所 准教授 磯 良崇

6月18日(土)、第2回学術研究発表会を昭和大学旗の台キャンパスで開催しました。今回も小口勝司理事長、小出良平学長にご臨席賜り、日本体育大学関係者を含め約70名の方に参加していただきました。演題数は11題と前回より増え、多くの部署から多岐に渡るテーマで発表が行われ、白熱した討議が行われました。

日本体育大学からも、秋廣秀一ラグビー部ヘッドコーチより「日本体育大学ラグビー部の取り組み」のタイトルで発表があり、日本体育大学ラグビーのポリシー・歴史・現在行っている先進的な練習法やその分析法、そして本学スポーツ運動科学研究所との連携について熱く語り頂きました。



今後も、更に研究発表会が盛り上がりそうですよう学内外の皆様のご協力をいただければと思います。

本年12月17日(土)には第3回が開催予定であり、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

あおば心臓リハビリ教室開講！

スポーツ運動科学研究所 准教授 磯 良崇

7月1日(金)、第1回あおば心臓リハビリ教室を横浜市青葉公会堂で開催しました。地域の心臓病患者さんの2次予防達成に向け、リハビリテーション病院心臓リハビリテーション室では、スポーツ運動科学研究所と横浜市青葉スポーツセンターと連携した活動を行っております。横浜市青葉スポーツセンターで運動療法を安全に継続してもらうとともに、病気や栄養についても継続的に学んで頂くことが重要と考え、今回、出前教室を企画しました。第1回は「心臓病・生活習慣病の食事について」と題して、藤が丘病院栄養科の玉木大輔先生に講師をお願いしました。通院されていた方だけでなく、スポーツセンターの一般利用者やスタッフの方も参加され、ユーモア溢れる語り口かつ解り易い栄養の話に熱心に耳を傾けていました。アンケートでも高い満足度を頂き、今後も継続していきたいと思っております。



公開講座が開催されました

7月2日(土)午後、藤が丘病院C棟臨床講堂にて平成28年度第1回藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院公開講座が開催され、52名の方が受講されました。今回の公開講座は『認知症予防と薬剤管理』をメインテーマに、藤が丘病院脳神経内科 加藤大貴講師による『認知症予防と治療の重要性～認知症ってどんな病気、糖尿病との関連は？～』と、リハビリテーション病院薬局・昭和大学薬学部病院薬剤学講座 藤原久登助教による『高齢者とクスリ～薬との上手な付き合い方～』の2つの講演が行われました。今年度第2回の公開講座は、『花粉症』をテーマに来年1月下旬に開催予定です。今後も地域の方々気軽に参加でき、参加された方々のためになるような公開講座を開催していきたいと考えておりますので、受講希望テーマやご意見等をお寄せくださるようお願い申し上げます。



(藤が丘病院管理課 高橋 良治)

短冊に願いを込めて 七夕の笹を飾りました

7月7日の七夕にちなみ、今年も藤が丘病院は正面階段とこどもセンターに、リハビリテーション病院は1階ロビーおよび各病棟に、それぞれ願いのこもった笹を飾りました。色とりどりの笹飾りは院内の職員や患者さんの手によるもので、今年も病院に華やかな夏の季節感を与えてくれました。短冊には様々な思いの詰まった願いが書かれており、早く皆さんの願いが叶ってほしいと思います。なお、笹は毎年、近隣住民の方からご寄付いただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。



また、当日は『クールアース・デー ライトダウン』に参加しました。両院の事務部門や共用廊下、看板類は8時30分より10時まで消灯し、各病棟では消灯時間を9時と早め、地球温暖化防止に努めました。(藤が丘病院管理課 毛利 綾香)

第1回がん患者会を開催しました

7月9日(土)午後、藤が丘病院にて平成28年度第1回がん患者会を開催しました。これは、患者さん同士のコミュニケーションを深め、がん治療に対する日頃の疑問や不安を解決する機会を提供することを目的として、今年度から始めた試みです。今回は入院中・通院中の患者さんやご家族の方にお声掛けし、あいにくの大雨でしたが、3名の方にお集まりいただきました。また、院内からは医師、看護師、栄養科職員の医療スタッフも参加しました。患者さんからは、抗がん剤の副作用や、治療・検査に対する不安について話が聞かれ、医師や看護師にぎっばらんに相談する場面もありました。最後には患者さんのフルートの演奏もあり、和やかな雰囲気の中、会は盛況のうちを終了となりました。(藤が丘病院管理課 岩崎 直樹)



第19回藤が丘地域連携フォーラムが開催されました

7月14日(木)、藤が丘病院にて第19回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。平成23年9月から始まった藤が

丘地域連携フォーラムも今回で19回目を迎えました。今回も地域医療機関の先生方や関係者等72施設109名の方にご参加いただきました。また、当院からも各診療科医師をはじめ看護師、コメディカル、メディカルソーシャルワーカー(MSW)、連携担当事務等、多数のスタッフが参加しました。

講演会では、2演題の講演が行われ、活発な質疑がなされました。懇親会では、藤が丘病院関係者113名も参加し、合計222名が集い、限られた時間ではありましたが、情報交換とともに親睦を深めることができました。



次回、第20回地域連携フォーラムは、10月13日(木)に開催を予定しております。多数のご参加を心よりお待ちしております。
(藤が丘病院医療推進課医療連携係 圓乗 佑太)

地域の盆踊り大会に参加しました

藤が丘二丁目自治会夏まつり盆踊り大会が7月16日(土)に藤が丘第三公園にて、8月6日(土)には藤が丘一丁目町内会盆踊り大会が藤が丘駅前公園にてそれぞれ開催されました。両日とも、藤が丘



病院・藤が丘リハビリテーション病院から病院長・副院長をはじめ事務部、看護部を中心に多職種の職員が大勢参加しました。職員はお揃いの青い法被を身に纏い、積極的に踊りの輪に加わり地域の方々との交流を深めていました。

(藤が丘病院管理課 毛利 綾香)

今年も壁画が描かれました

リハビリテーション病院3階から4階の階段室に今年も壁画が描かれました。これは橘学苑高等学校(横浜市鶴見区)デザイン美術コースの生徒有志27人がボランティアとして7月27日から8月5日の間に制作したものです。今回の壁画のテーマは『花の道』で、明るい色で前向きな花言葉を持つというポーチュラカ、ペチュニア、ヒマワリ、ガーベラ、デイジー、トルコキキョウ、カラシコエ、カキツバタの8種類の花を描き、階段に面した壁に明るい花畑が出現しました。生徒たちは、階段、壁などをしっかりと養生してから制作に取り掛かり、壁画完成後は綺麗にゴミを拾い、階段を一段ずつ丁寧に雑巾で拭いていました。



一昨年は1階から2階にかけて『窓越しに見た神奈川の風景』、昨年は2階から3階にかけて『夕涼み』をそして今回、3階から4階にかけて『花の道』と壁画が次々に描かれ、殺風景だった階段室が華やかになりました。また4階から5階へかけての階段室は手付かずです。来年はどんな絵が描かれるのか、今から楽しみです。

(藤が丘病院管理課 高橋 良治)

診療統計 2016年6月・7月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2016年6月	2016年7月	2016年6月	2016年7月
外来患者数	28,183人 (1,084.0人)	27,112人 (1,084.5人)	4,272人 (164.3人)	3,991人 (159.6人)
入院患者数	15,974人 (532.5人)	15,364人 (495.6人)	5,257人 (175.2人)	5,315人 (171.5人)
紹介率	84.5%	82.9%	63.1%	65.2%
逆紹介率	61.1%	62.1%	64.2%	67.1%

《編集委員》

田中 淳一 佐々木 春明 市川 度 池田 裕一 小岩 文彦 磯 良崇
 芳賀 ひろみ 辻本 さなえ 猪股 里美 出川 美幸 杉山 創 小宅 育代
 岩井 譜憲 圓乗 佑太 大塚 凌 高橋 良治 (順不同)